

ヤングケアラー実態調査の結果について

稲沢市子ども健康部子育て支援課

1 調査の概要

(1) 調査目的

『ヤングケアラー』とは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」とされています。その割合は、中学生の約 17 人に 1 人に上ることが令和 2 年度に厚生労働省が行った実態調査で明らかになりました。

また、愛知県では、令和 3 年度に公立小中高校に在籍する小学 5 年生、中学 2 年生、高校 2 年生を対象として調査を実施したところ、小学生の 7 割、中高生の 6 割以上が、『ヤングケアラー』という言葉聞いたことがないという結果となり、世話をしている家族が「いる」と回答したのは、小学 5 年生で約 6 人に 1 人（16.7%）、中学 2 年生で約 9 人に 1 人（11.3%）、高校 2 年生で約 14 人に 1 人（7.1%）という結果になりました。

本市においても、『ヤングケアラー』の認知度及び実態を把握するとともに、必要な支援につなぐ体制の構築や認知度向上の方策等の検討を行うため、アンケートを実施しました。

(2) 調査の対象及び回答

本調査は、市立小中学校の児童・生徒、市内在住の私立等小中学校の児童・生徒、市内在住の高校生世代、市立小中学校の教職員を対象に「ヤングケアラー実態調査」を実施しました。

対象	調査実数	回答数	回答率
小学生（4 年生～6 年生）	3,490 件	2,764 件	79.2%
中学生（1 年生・2 年生）	2,416 件	1,744 件	72.2%
高校生世代（1・2 年生に該当する方）	2,473 件	708 件	28.6%
市立小中学校の教職員	666 件	484 件	72.7%

(3) 調査時期

令和 7 年 11 月

(4) 調査の方法

市立小学校 4 年生～6 年生、市立中学校 1 年生・2 年生、市立小中学校教職員については、教育用タブレットを利用して学校で回答

市立以外の小中学生、高校生世代については、アンケートを郵送し、WEB 上にて回答

(5) 調査結果の留意事項

- ① 比率はすべてパーセント（％）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しました。そのため、合計が100％にならないことがあります。
- ② 回答率（％）は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- ③ 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数とし、その項目を選択した人が全体からみて何％なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率の合計は100％を超える場合があります。
- ④ 質問の難易度（理解度）を考慮し、小学生には聞いていない（該当しない）項目があります。
- ⑤ 高校生世代、教職員で回答数が少ない項目については、グラフ等を省略している項目があります。

2 集計結果の概要【小学生・中学生・高校生世代】

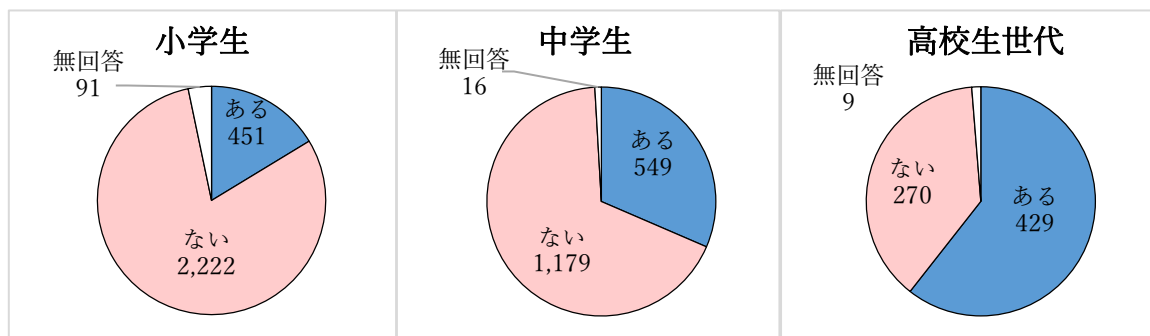
(1) 『ヤングケアラー』の認知度

『ヤングケアラー』という言葉の認知度について、小学生では 80.4%、中学生では 67.6% が「聞いたことがない」と回答しました。小学生と中学生を合計すると、「聞いたことがない」と答えた小学生・中学生は 75.4%という結果となりました。高校生世代では、60.6%が「聞いたことがある」と回答し、年齢が上がるにつれて認知度が上がっていることが分かりました。

また、何で知ったかについては、「テレビやラジオ」、「学校」がどの年代においても上位となりました。

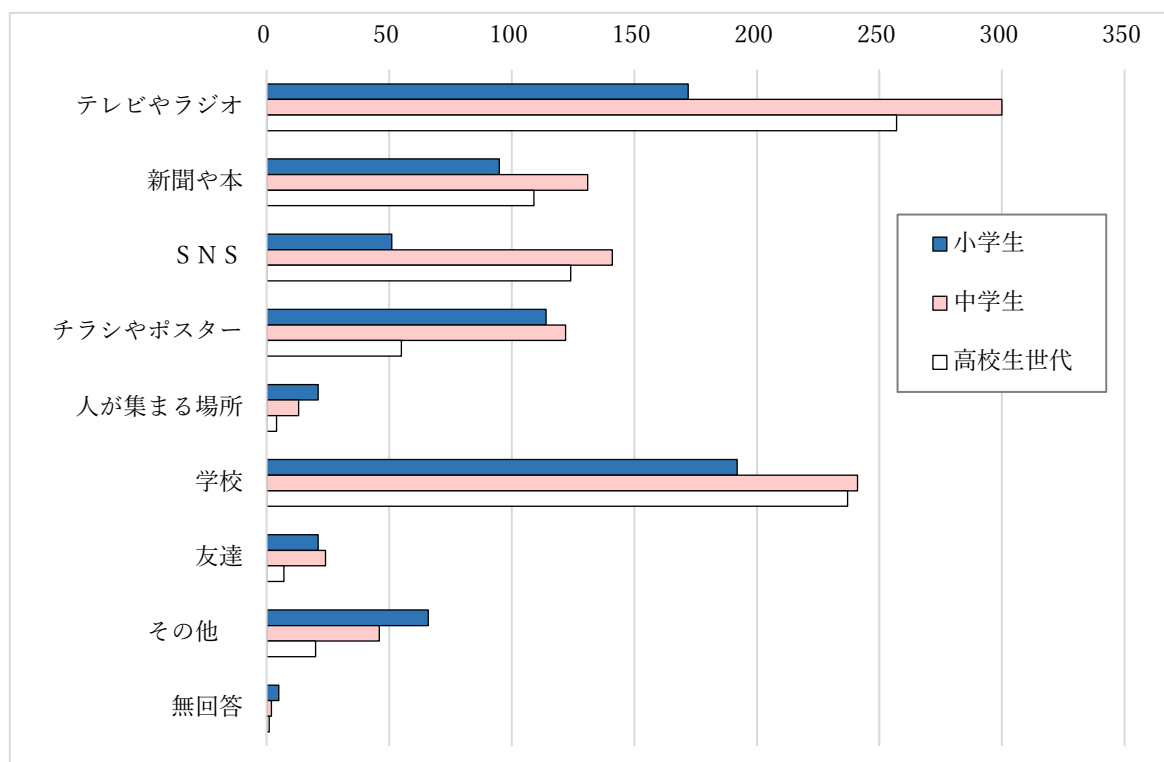
Q. 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。

項目	小学生 回答者数 2,764	中学生 回答者数 1,744	高校生世代 回答者数 708
ある	451 人 (16.3%)	549 人 (31.5%)	429 人 (60.6%)
ない	2,222 人 (80.4%)	1,179 人 (67.6%)	270 人 (38.1%)
無回答	91 人 (3.3%)	16 人 (0.9%)	9 人 (1.3%)



Q. 「ヤングケアラー」という言葉を何で知りましたか。(複数選択)

項目	小学生 回答者数 451	中学生 回答者数 549	高校生世代 回答者数 429
テレビやラジオ	172 人 (38.1%)	300 人 (54.6%)	257 人 (59.9%)
新聞や本	95 人 (21.1%)	131 人 (23.9%)	109 人 (25.4%)
SNS (X、Facebook、LINE など)	51 人 (11.3%)	141 人 (25.7%)	124 人 (28.9%)
チラシやポスター	114 人 (25.3%)	122 人 (22.2%)	55 人 (12.8%)
イベントなど人が集まる場所	21 人 (4.7%)	13 人 (2.4%)	4 人 (0.9%)
学校	192 人 (42.6%)	241 人 (43.9%)	237 人 (55.2%)
友達から聞いた	21 人 (4.7%)	24 人 (4.4%)	7 人 (1.6%)
その他	66 人 (14.6%)	46 人 (8.4%)	20 人 (4.7%)
無回答	5 人 (1.1%)	2 人 (0.4%)	1 人 (0.2%)



(2) お世話（ケア）の現状

お世話（ケア）の現状について、小学生では、本来大人がするような家事や家族のお世話をしている児童は全体の 564 人（20.4%）いました。お世話（ケア）の内容としては、「料理・洗濯・掃除などの家事」が 354 人（62.8%）と最も多く、次いで「幼いきょうだいのお世話」が 177 人（31.4%）となり、他の世代より数値が高いことから、質問の意図や『ヤングケアラー』の意味が正しく理解できていないことが推察されます。

中学生では、本来大人がするような家事や家族のお世話をしている生徒は全体の 183 人（10.5%）いました。お世話（ケア）の内容としては、「料理・洗濯・掃除などの家事」が 120 人（65.6%）と最も多く、次いで「幼いきょうだいのお世話」が 73 人（39.9%）となりました。お世話（ケア）をしている人は、「きょうだい」が 92 人（50.3%）で最も多く、次いで「父・母」が 60 人（32.8%）となり、その理由としては、「幼いため」が 79 人（43.2%）、「高齢のため」が 42 人（23.0%）となりました。

お世話（ケア）をしている時間としては、毎日お世話（ケア）をしている中学生・高校生世代が 4 人に 1 人以上、週 3 日以上お世話（ケア）をしているこどもが、中学生で 45.4%、高校生世代で 29.2%となりました。また、平日 1 日あたり 3 時間以上お世話（ケア）をしているこどもは、中学生 10 人（5.5%）、高校生世代 2 人（8.3%）、休日 1 日あたり 3 時間以上お世話（ケア）をしているこどもは、中学生 31 人（16.9%）、高校生世代 5 人（20.8%）となり、そのうち 5 時間以上お世話（ケア）をしているこどもが、中学生 7 人（3.8%）、高校生世代 2 人（8.3%）となりました。

行っているお世話（ケア）の内容



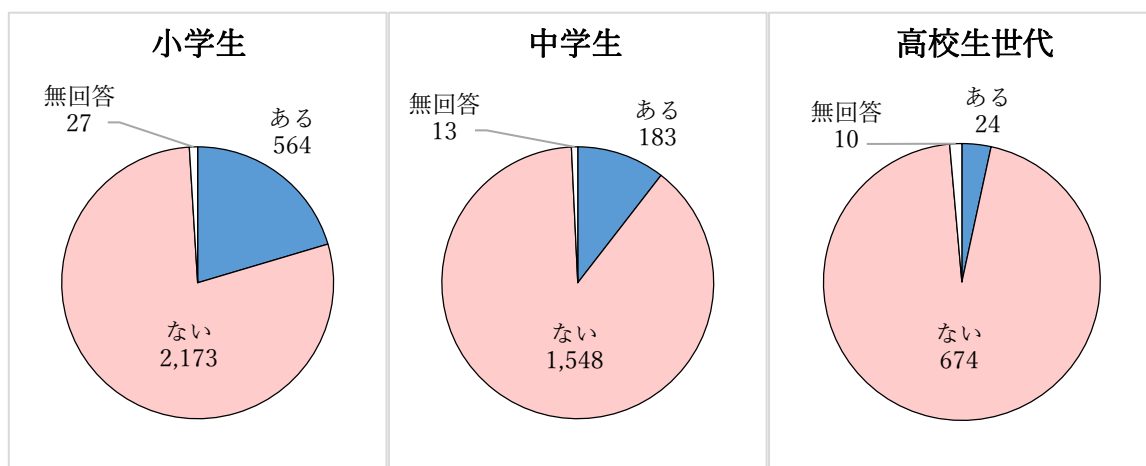
出典：こども家庭庁「ヤングケアラー特設サイト」(<https://kodomochien.cfa.go.jp/young-career/public/>)

<イラストの説明>

- ①料理・洗濯・掃除など
- ②幼いきょうだいのお世話
- ③障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守り
- ④目の離せない家族の見守りや声かけ
- ⑤耳が聞こえない家族のために手話通訳
- ⑥働いてお金を稼ぐ
- ⑦アルコールやギャンブルなどがやめられない家族に対応
- ⑧うつ病やがんなどの病気の家族の看病
- ⑨障がいのある家族の身の回りの世話
- ⑩障がいのある家族の入浴やトイレの介助

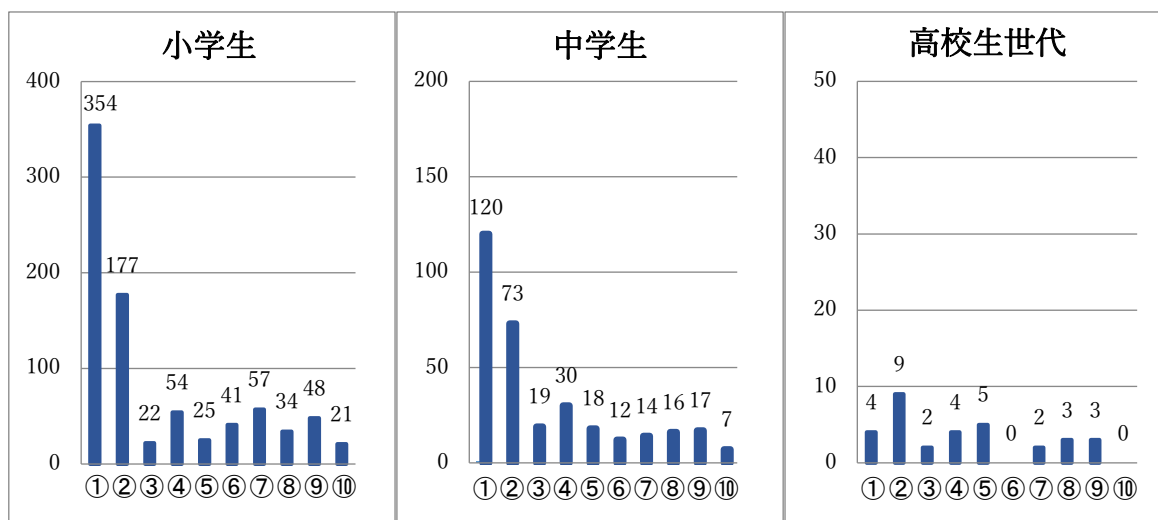
Q. お世話（ケア）のイラストを見て、あなたがしているお世話（ケア）はありますか。

項目	小学生 回答者数 2,764	中学生 回答者数 1,744	高校生世代 回答者数 708
ある	564 人 (20.4%)	183 人 (10.5%)	24 人 (3.4%)
ない	2,173 人 (78.6%)	1,548 人 (88.8%)	674 人 (95.2%)
無回答	27 人 (1.0%)	13 人 (0.7%)	10 人 (1.4%)



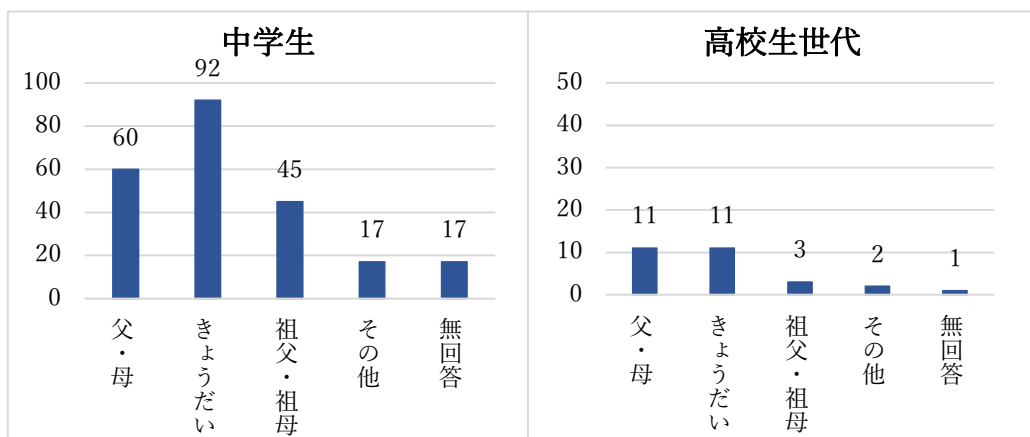
Q. イラストの中のどのお世話（ケア）をしていますか。（複数選択）

項目	小学生 回答者数 564	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
①家族に代わり家事	354 人 (62.8%)	120 人 (65.6%)	4 人 (16.7%)
②幼いきょうだい	177 人 (31.4%)	73 人 (39.9%)	9 人 (37.5%)
③病気等のきょうだい	22 人 (3.9%)	19 人 (10.4%)	2 人 (8.3%)
④見守りや声かけ	54 人 (9.6%)	30 人 (16.4%)	4 人 (16.7%)
⑤家族の通訳	25 人 (4.4%)	18 人 (9.8%)	5 人 (20.8%)
⑥労働	41 人 (7.3%)	12 人 (6.6%)	0 人 (0.0%)
⑦依存症の家族	57 人 (10.1%)	14 人 (7.7%)	2 人 (8.3%)
⑧病気の家族の看病	34 人 (6.0%)	16 人 (8.7%)	3 人 (12.5%)
⑨身の回りの世話	48 人 (8.5%)	17 人 (9.3%)	3 人 (12.5%)
⑩身体的な介護	21 人 (3.7%)	7 人 (3.8%)	0 人 (0.0%)
無回答	5 人 (0.9%)	3 人 (1.6%)	0 人 (0.0%)



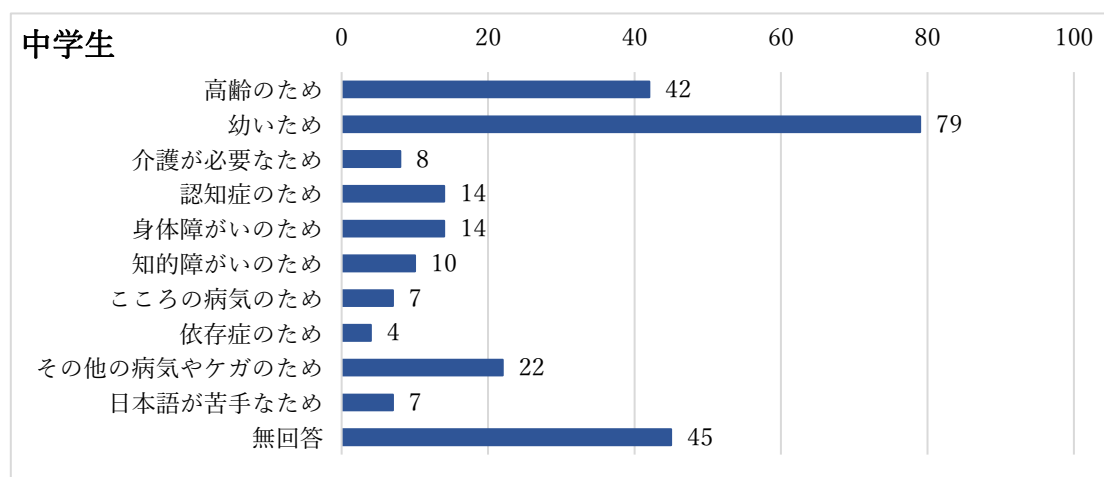
Q. あなたがお世話（ケア）をしている人は誰ですか。（複数選択）

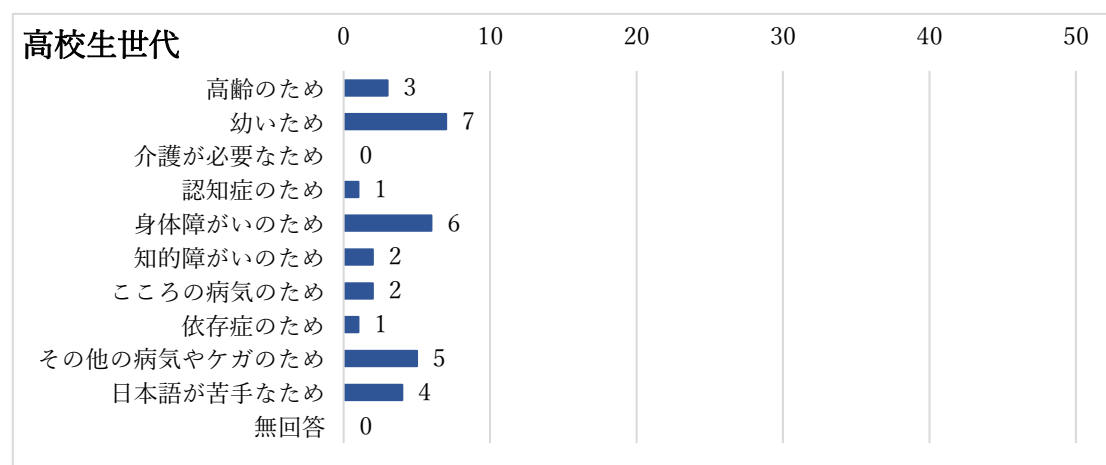
項目	小学生	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
父・母		60 人 (32.8%)	11 人 (45.8%)
きょうだい		92 人 (50.3%)	11 人 (45.8%)
祖父・祖母		45 人 (24.6%)	3 人 (12.5%)
その他		17 人 (9.3%)	2 人 (8.3%)
無回答		17 人 (9.3%)	1 人 (4.2%)



Q. その人はどのような理由でお世話（ケア）を必要としていますか。（複数選択）

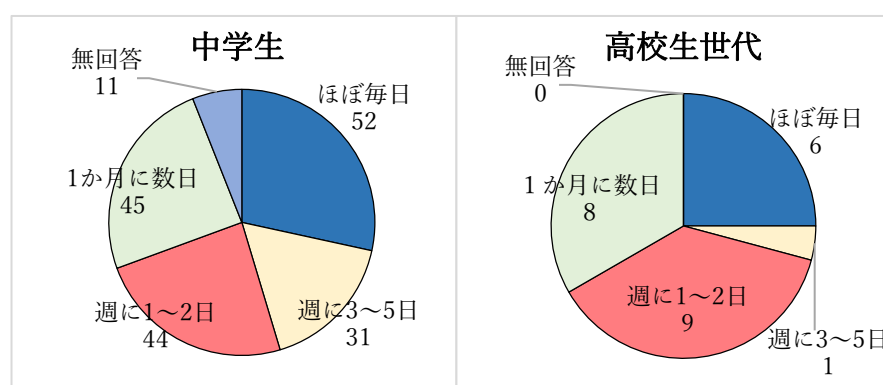
項目	小学生	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
高齢のため		42 人 (23.0%)	3 人 (12.5%)
幼いため		79 人 (43.2%)	7 人 (29.2%)
介護が必要なため		8 人 (4.4%)	0 人 (0.0%)
認知症のため		14 人 (7.7%)	1 人 (4.2%)
身体障がいのため		14 人 (7.7%)	6 人 (25.0%)
知的障がいのため		10 人 (5.5%)	2 人 (8.3%)
こころの病気のため		7 人 (3.8%)	2 人 (8.3%)
依存症のため		4 人 (2.2%)	1 人 (4.2%)
その他の病気やケガのため		22 人 (12.0%)	5 人 (20.8%)
日本語が苦手なため		7 人 (3.8%)	4 人 (16.7%)
無回答		45 人 (24.6%)	0 人 (0.0%)





Q. あなたはどのぐらいお世話（ケア）をしていますか。

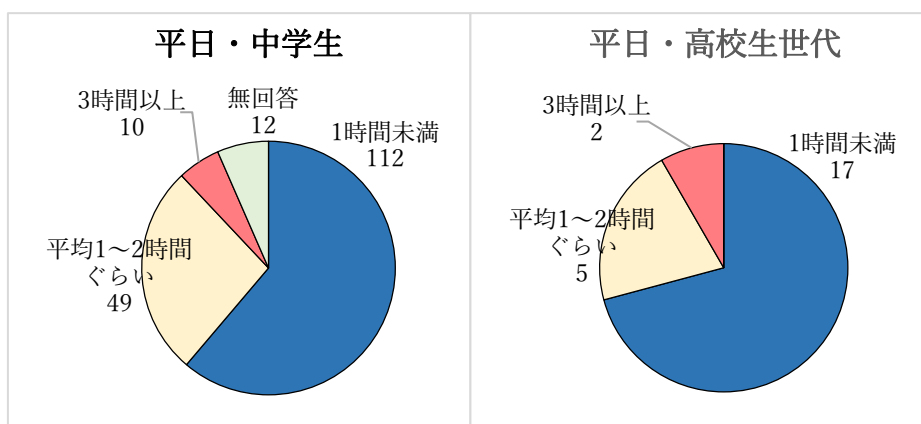
項目	小学生	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
ほぼ毎日		52 人 (28.4%)	6 人 (25.0%)
週に3～5日		31 人 (16.9%)	1 人 (4.2%)
週に1～2日		44 人 (24.0%)	9 人 (37.5%)
1か月に数日		45 人 (24.6%)	8 人 (33.3%)
無回答		11 人 (6.0%)	0 人 (0.0%)



Q. あなたは1日に何時間ぐらいお世話（ケア）をしていますか。

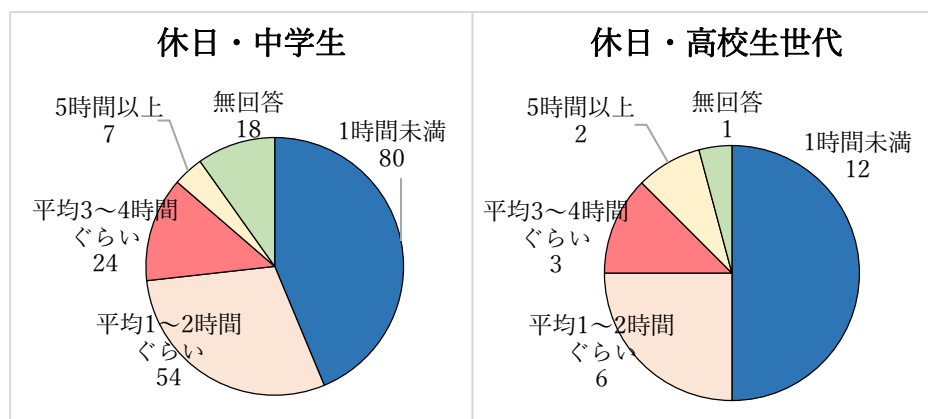
<平日>

項目	小学生	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
1 時間未満		112 人 (61.2%)	17 人 (70.8%)
平均 1 ～ 2 時間ぐらい		49 人 (26.8%)	5 人 (20.8%)
3 時間以上		10 人 (5.5%)	2 人 (8.3%)
無回答		12 人 (6.6%)	0 人 (0.0%)



<休日>

項目	小学生	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
1 時間未満		80 人 (43.7%)	12 人 (50.0%)
平均 1 ～ 2 時間ぐらい		54 人 (29.5%)	6 人 (25.0%)
平均 3 ～ 4 時間ぐらい		24 人 (13.1%)	3 人 (12.5%)
5 時間以上		7 人 (3.8%)	2 人 (8.3%)
無回答		18 人 (9.8%)	1 人 (4.2%)



(3) お世話（ケア）している影響・気持ち・必要な支援など

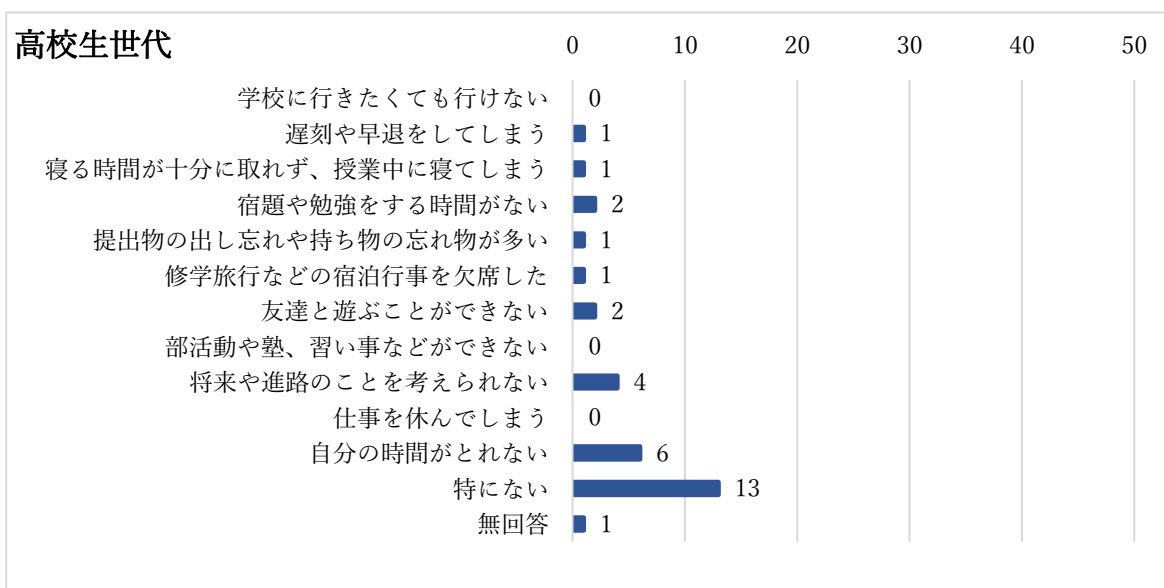
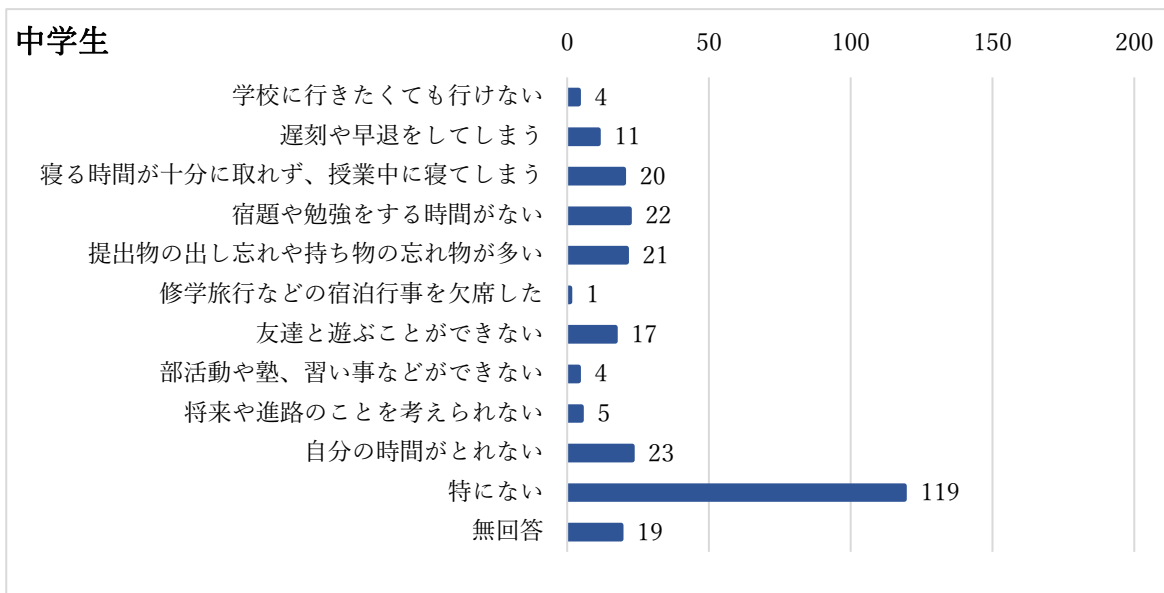
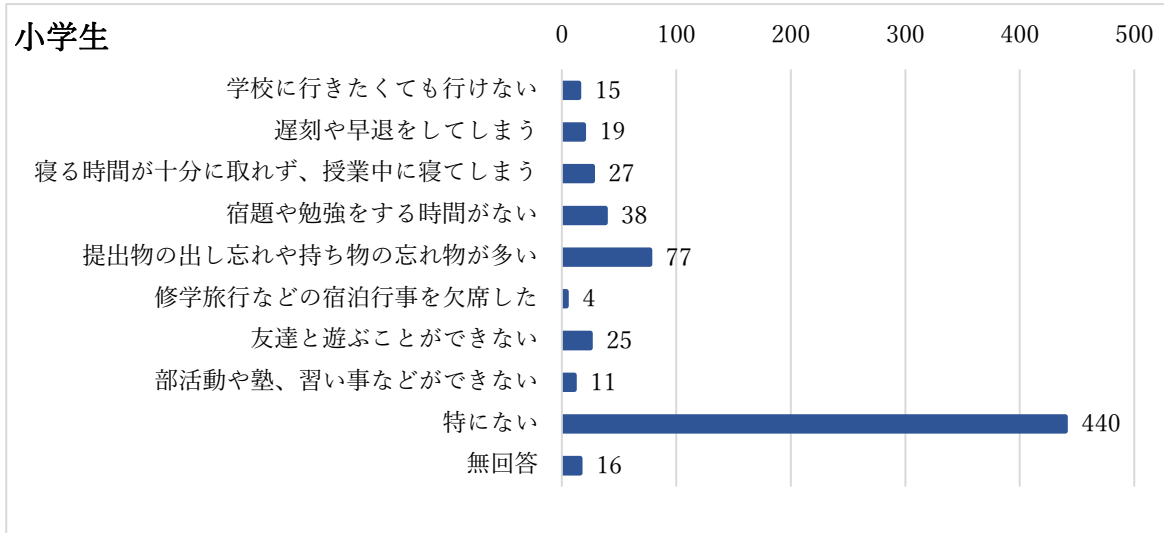
お世話（ケア）をしていることによる影響について、どの年代においても「特にない」の回答が大半を占めました。学校に関することや自分の時間に関することなどへの影響を感じている人も一定数いることが分かりました。

また、気持ちの面では、「身体がつらい」・「気持ちがつらい」と回答した人が一定数おり、年齢が上がるにつれ、その割合も大きくなっていることが分かりました。

助けてほしいことや必要としている支援について、中学生では、「勉強を教えてほしい」が26人（14.2%）、「自由に使える時間がほしい」が23人（12.6%）、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が16人（8.7%）となりました。

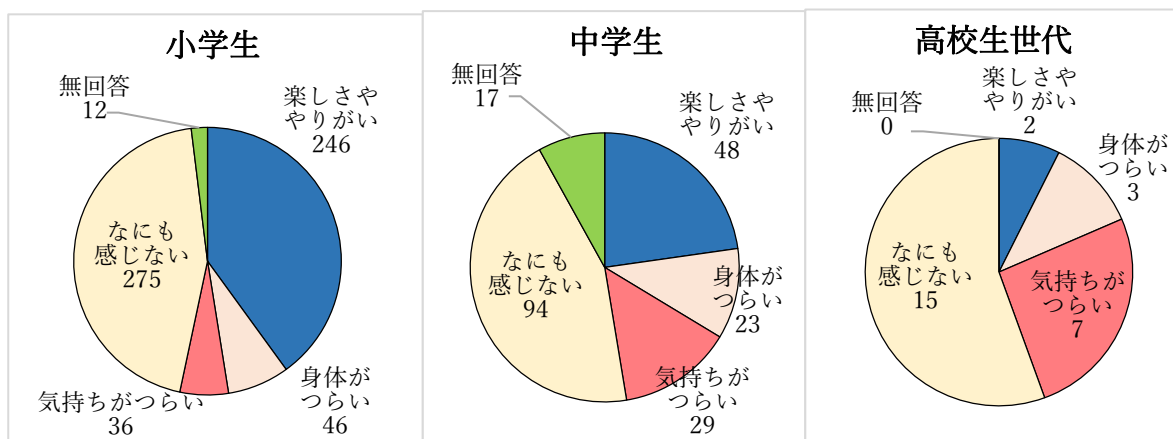
Q. お世話（ケア）をしていることで、次にあてはまることはありますか。（複数選択）

項目	小学生 回答者数 564	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
学校に行きたくても行けない	15 人 (2.7%)	4 人 (2.2%)	0 人 (0.0%)
遅刻や早退をしてしまう	19 人 (3.4%)	11 人 (6.0%)	1 人 (4.2%)
寝る時間が十分に取れず、授業中に寝てしまう	27 人 (4.8%)	20 人 (10.9%)	1 人 (4.2%)
宿題や勉強をする時間がない	38 人 (6.7%)	22 人 (12.0%)	2 人 (8.3%)
提出物の出し忘れや持ち物の忘れ物が多い	77 人 (13.7%)	21 人 (11.5%)	1 人 (4.2%)
修学旅行や校外学習に行けなかった	4 人 (0.7%)	1 人 (0.5%)	1 人 (4.2%)
友だちと遊ぶことができない	25 人 (4.4%)	17 人 (9.3%)	2 人 (8.3%)
部活動や、塾、習い事ができない	11 人 (2.0%)	4 人 (2.2%)	0 人 (0.0%)
将来や進路のことを考えられない		5 人 (2.7%)	4 人 (16.7%)
仕事を休んでしまう			0 人 (0.0%)
自分の時間がとれない		23 人 (12.6%)	6 人 (25.0%)
特にない	440 人 (78.0%)	119 人 (65.0%)	13 人 (54.2%)
無回答	16 人 (2.8%)	19 人 (10.4%)	1 人 (4.2%)



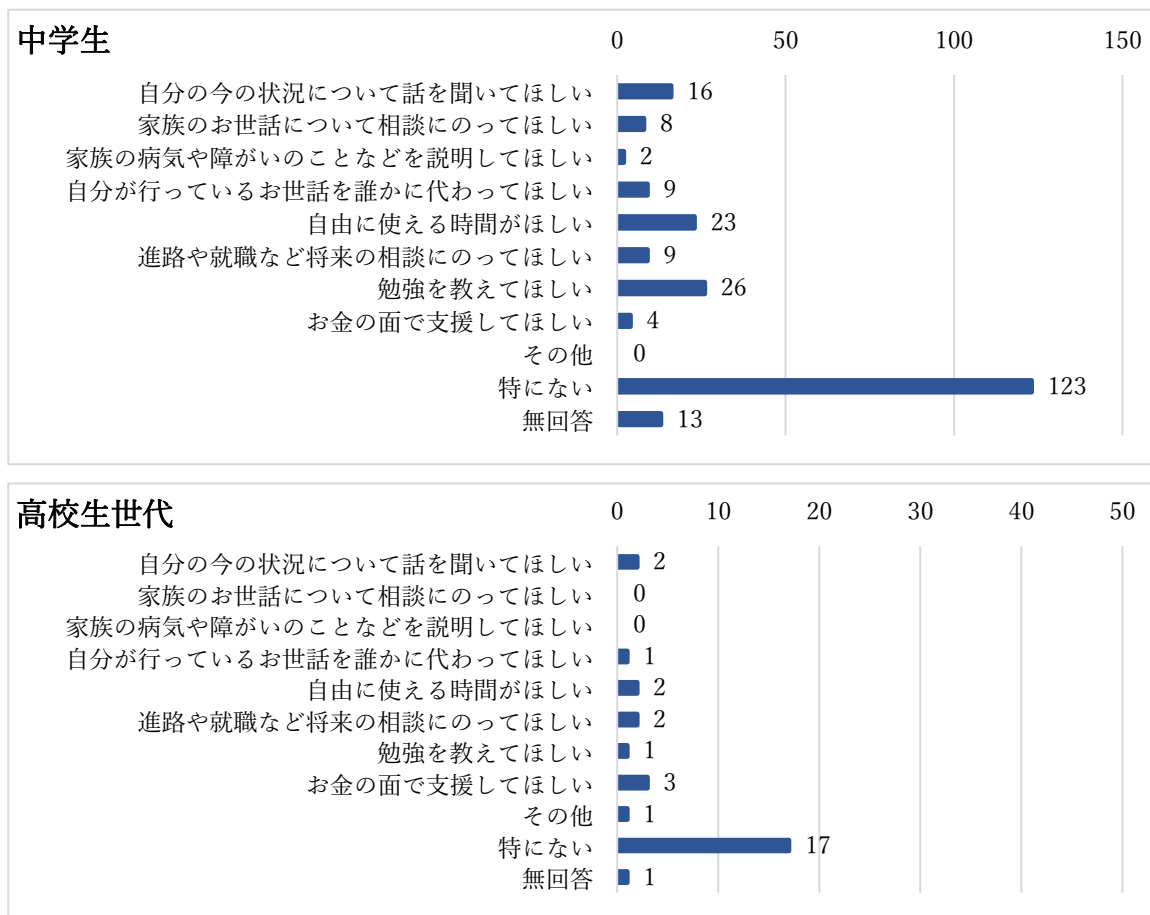
Q. お世話（ケア）をすることをどのように感じていますか。（複数選択）

項目	小学生 回答者数 564	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
楽しさややりがいを感じている	246 人 (43.6%)	48 人 (26.2%)	2 人 (8.3%)
身体がつらい	46 人 (8.2%)	23 人 (12.6%)	3 人 (12.5%)
気持ちがつらい	36 人 (6.4%)	29 人 (15.8%)	7 人 (29.2%)
特になにも感じない	275 人 (48.8%)	94 人 (51.4%)	15 人 (62.5%)
無回答	12 人 (2.1%)	17 人 (9.3%)	0 人 (0.0%)



Q. 学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援はありますか。（複数選択）

項目	小学生	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
自分の今の状況について話を聞いてほしい		16 人 (8.7%)	2 人 (8.3%)
家族のお世話（ケア）について相談にのってほしい		8 人 (4.4%)	0 人 (0.0%)
家族の病気や障がい、お世話（ケア）のことなどについてわかりやすく説明してほしい		2 人 (1.1%)	0 人 (0.0%)
自分が行っているお世話（ケア）を誰かに代わってほしい		9 人 (4.9%)	1 人 (4.2%)
自由に使える時間がほしい		23 人 (12.6%)	2 人 (8.3%)
進路や就職など将来の相談にのってほしい		9 人 (4.9%)	2 人 (8.3%)
勉強を教えてほしい		26 人 (14.2%)	1 人 (4.2%)
お金の面で支援してほしい		4 人 (2.2%)	3 人 (12.5%)
その他		0 人 (0.0%)	1 人 (4.2%)
特にない		123 人 (67.2%)	17 人 (70.8%)
無回答		13 人 (7.1%)	1 人 (4.2%)



(4) お世話（ケア）していることの相談

お世話（ケア）していることやその悩みを相談したことがあるかについては、「ない」と回答した小学生が 500 人（88.7%）、中学生が 140 人（76.5%）となりました。相談した相手としては、小学生・中学生ともに「家族」が最も多く、次いで「友だち」となりました。

相談していない理由としては、「相談するほどの悩みではない」が最も多い回答となりましたが、「誰に相談するのがよいかわからない」、「相談できる人がいない」、「相談しても何も変わらない」と回答した人が一定以上いることも分かりました。

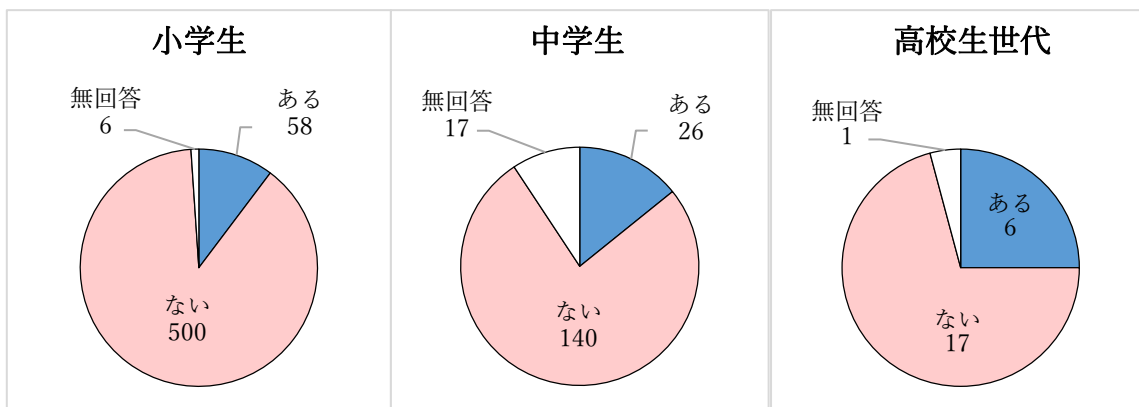
相談できる場所として知っているのは、どの年代においても「学校の先生」が小学生 73.5%、中学生 76.9%、高校生世代 80.6%と最も多く、次いで小学生、中学生では「こども悩み事相談ダイヤル」が小学生 49.5%、中学生 49.3%となり、高校生世代では「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」が 60.3%という結果になりました。

「ひとつも知らない」と答えた小学生が 10.6%いることも分かり、今後も相談先等の周知が必要です。

また、相談する方法については、「直接会って話がしたい」が中学生 54.7%、高校生世代 55.5%と最も多く、次いで「SNS（X、Facebook、LINE など）」が中学生 33.4%、高校生世代 42.9%となりました。

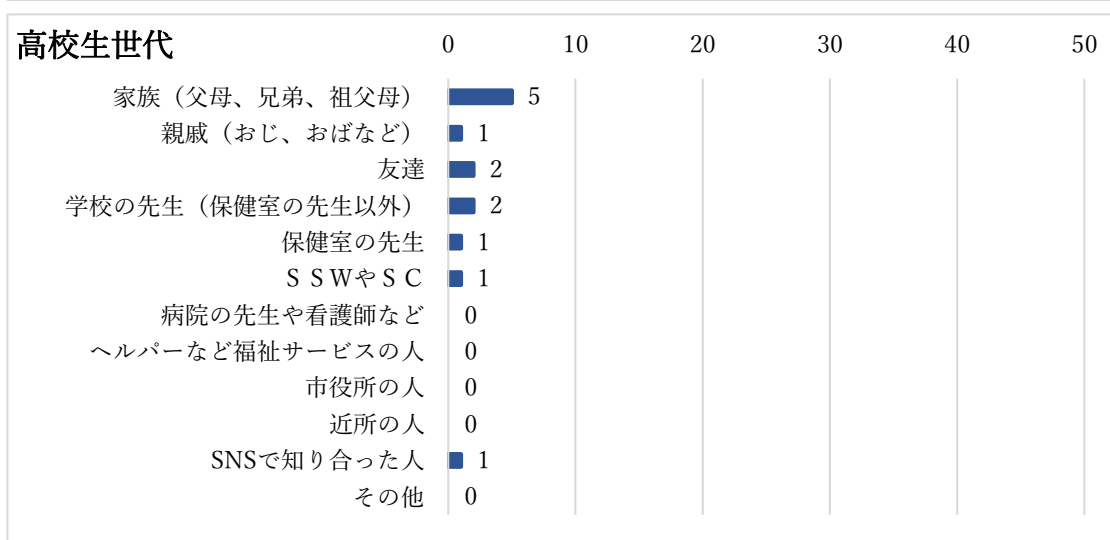
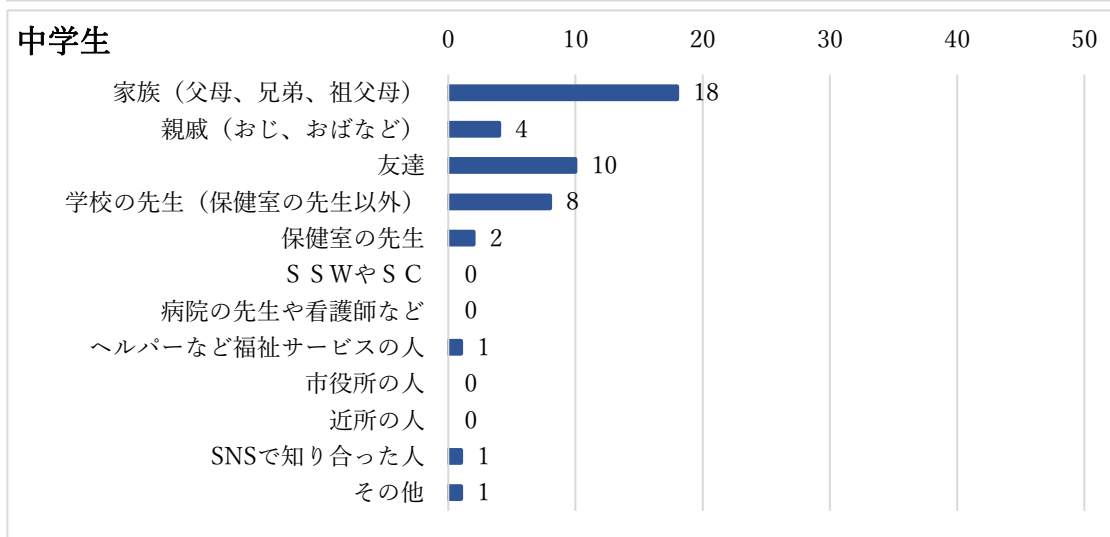
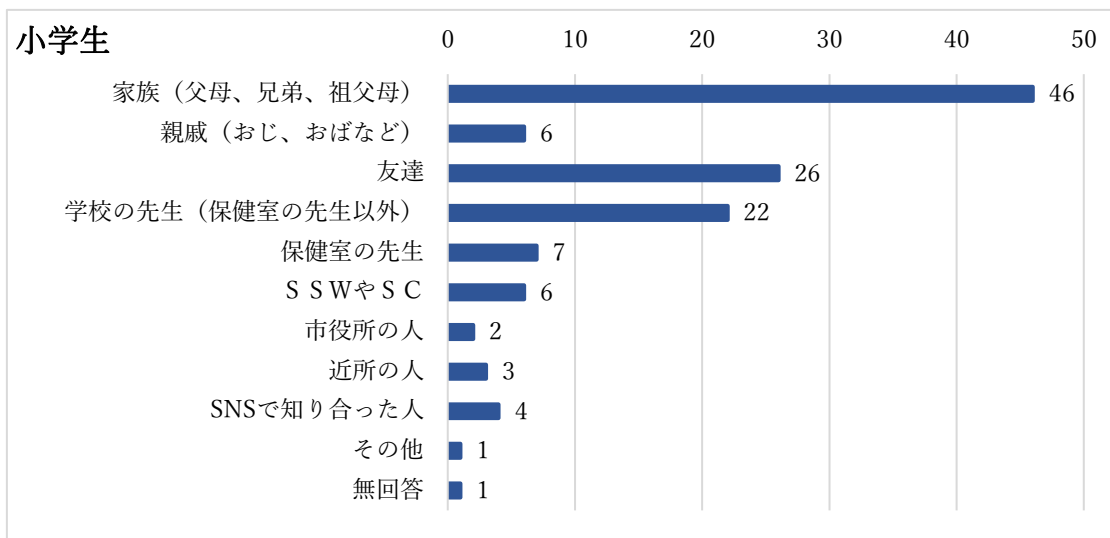
Q. お世話（ケア）をしていることやその悩みを相談したことがありますか。

項目	小学生 回答者数 564	中学生 回答者数 183	高校生世代 回答者数 24
ある	58 人 (10.3%)	26 人 (14.2%)	6 人 (25.0%)
ない	500 人 (88.7%)	140 人 (76.5%)	17 人 (70.8%)
無回答	6 人 (1.1%)	17 人 (9.3%)	1 人 (4.2%)



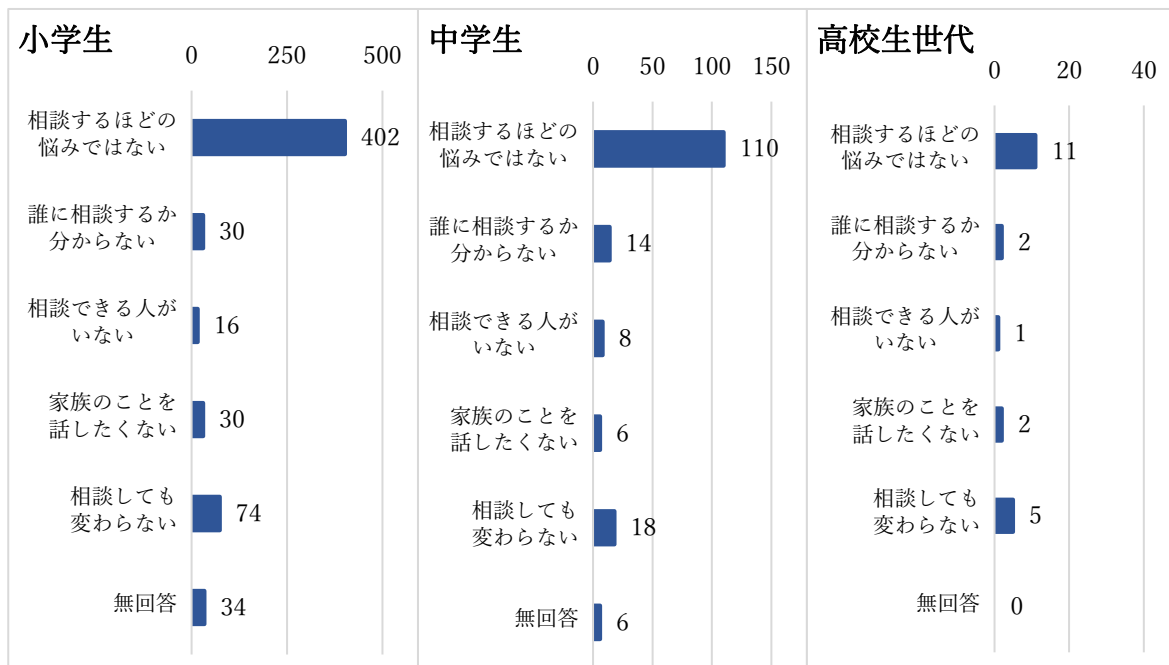
Q. 相談した人は誰ですか。（複数選択）

項目	小学生 回答者数 58	中学生 回答者数 26	高校生世代 回答者数 6
家族（父、母、きょうだいなど）	46 人 (79.3%)	18 人 (69.2%)	5 人 (83.3%)
親戚（おじさん、おばさんなど）	6 人 (10.3%)	4 人 (15.4%)	1 人 (16.7%)
友だち	26 人 (44.8%)	10 人 (38.5%)	2 人 (33.3%)
学校の先生	22 人 (37.9%)	8 人 (30.8%)	2 人 (33.3%)
保健室の先生	7 人 (12.1%)	2 人 (7.7%)	1 人 (16.7%)
スクールソーシャルワーカーや スクールカウンセラー	6 人 (10.3%)	0 人 (0.0%)	1 人 (16.7%)
病院の先生や看護師、病院の人		0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
ヘルパーやケアマネジャーなどの 福祉サービスの人		1 人 (3.8%)	0 人 (0.0%)
市役所の人	2 人 (3.4%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
近所の人	3 人 (5.2%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
SNS（X、フェイスブック、ライン など）で知り合った人	4 人 (6.9%)	1 人 (3.8%)	1 人 (16.7%)
その他	1 人 (1.7%)	1 人 (3.8%)	0 人 (0.0%)
無回答	1 人 (1.7%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)



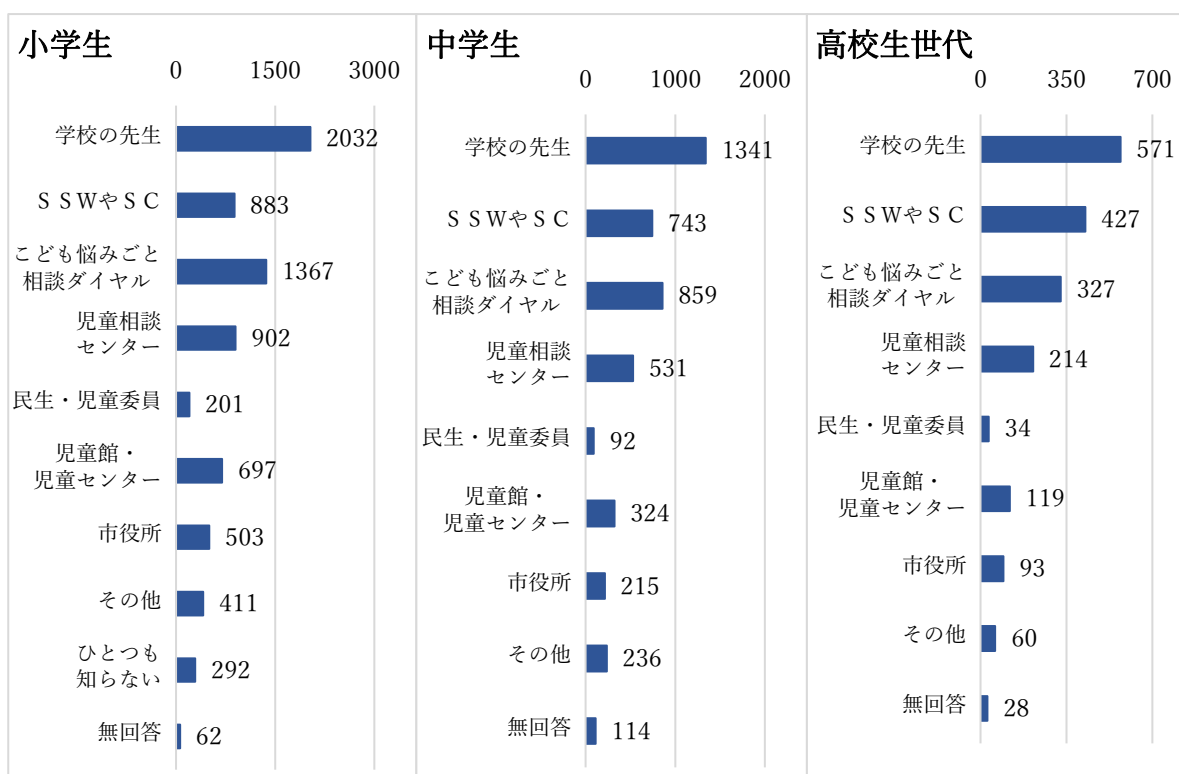
Q. 相談していない理由を教えてください。(複数選択)

項目	小学生 回答者数 500	中学生 回答者数 140	高校生世代 回答者数 17
相談するほどの悩みではない	402 人 (80.4%)	110 人 (78.6%)	11 人 (64.7%)
誰に相談するのがよいかわからない	30 人 (6.0%)	14 人 (10.0%)	2 人 (11.8%)
相談できる人がいない	16 人 (3.2%)	8 人 (5.7%)	1 人 (5.9%)
家族のことは話したくない	30 人 (6.0%)	6 人 (4.3%)	2 人 (11.8%)
相談しても何も変わらない	74 人 (14.8%)	18 人 (12.9%)	5 人 (29.4%)
無回答	34 人 (6.8%)	6 人 (4.3%)	0 人 (0.0%)



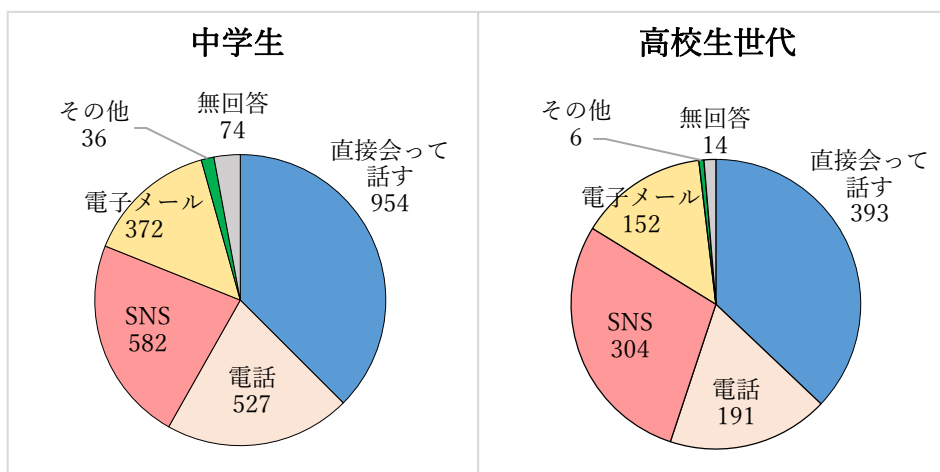
Q. 悩みなどを相談できる人や場所で知っているものは次のうちどれですか。（複数選択）

項目	小学生 回答者数 2,764	中学生 回答者数 1,744	高校生世代 回答者数 708
学校の先生	2,032 人 (73.5%)	1,341 人 (76.9%)	571 人 (80.6%)
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	883 人 (31.9%)	743 人 (42.6%)	427 人 (60.3%)
こども悩みごと相談ダイヤル	1,367 人 (49.5%)	859 人 (49.3%)	327 人 (46.2%)
児童相談センター	902 人 (32.6%)	531 人 (30.4%)	214 人 (30.2%)
民生委員・児童委員	201 人 (7.3%)	92 人 (5.3%)	34 人 (4.8%)
児童館・児童センター	697 人 (25.2%)	324 人 (18.6%)	119 人 (16.8%)
市役所	503 人 (18.2%)	215 人 (12.3%)	93 人 (13.1%)
その他	411 人 (14.9%)	236 人 (13.5%)	60 人 (8.5%)
ひとつも知らない	292 人 (10.6%)		
無回答	62 人 (2.2%)	114 人 (6.5%)	28 人 (4.0%)



Q. 悩みなどを相談するとしたらどのような方法が相談しやすいですか。(複数選択)

項目	小学生	中学生 回答者数 1,744	高校生世代 回答者数 708
直接会って話したい		954 人 (54.7%)	393 人 (55.5%)
電話		527 人 (30.2%)	191 人 (27.0%)
SNS (X、Facebook、LINE など)		582 人 (33.4%)	304 人 (42.9%)
電子メール		372 人 (21.3%)	152 人 (21.5%)
その他		36 人 (2.1%)	6 人 (0.8%)
無回答		74 人 (4.2%)	14 人 (2.0%)



3 集計結果の概要【教職員】

(1) 『ヤングケアラー』と思われるこども

『ヤングケアラー』と思われるこどもは、小学校 98 人、中学校 81 人、所属無回答 2 人で、合計 181 人となりました。これは、各教職員が把握している人数の合計であり、該当のこどもが重複していると考えられるため、実人数は分からないものの、一定数いることが分かります。

『ヤングケアラー』と思われるこどもの状況としては、「親の代わりに幼いきょうだいの世話をしている」が小学校 88.4%、中学校 90.7%、所属無回答 100.0%と、他の項目に比べ高い結果となりました。

『ヤングケアラー』と思われるこどもを発見した場合の対応としては、「こども本人に詳しい話を聞く」が小学校、中学校ともに 76.7%と最も多い反面、「何をしたらいいか分からない」が小学校 16.3%、中学校 11.6%と対応に困っている教職員がいることも分かりました。

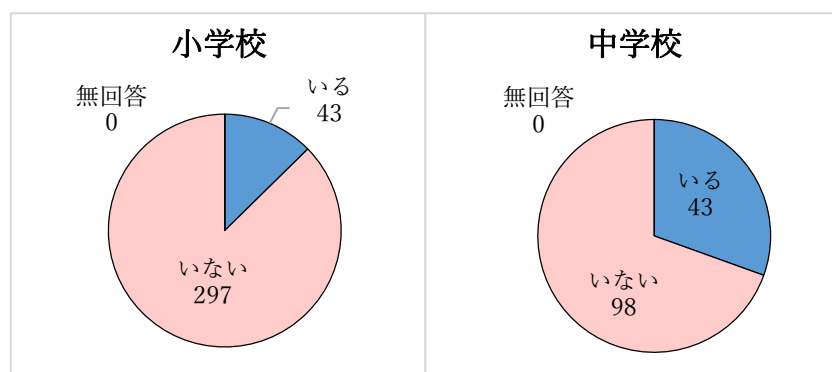
『ヤングケアラー』と思われるこどもへの影響としては、小学校では「宿題や持ち物の忘れ物が多い」が 60.5%、中学校では「遅刻や早退が多い」が 51.2%と最も多く、次いで小学校では「精神的な不安定さがある」が 41.9%、中学校では「身だしなみが整っていない」が 46.5%でした。学校生活のみならず、私生活への影響も懸念されます。

Q. 所属している学校を教えてください。

項目	回答数
小学校	340 人 (70.2%)
中学校	141 人 (29.1%)
無回答	3 人 (0.6%)

Q. 関わっているこどもの中に「ヤングケアラー」と思われるこどもはいますか。

項目	小学校 回答者数 340	中学校 回答者数 141	所属無回答 回答者数 3
いる	43 人 (12.6%)	43 人 (30.5%)	2 人 (66.7%)
いない	297 人 (87.4%)	98 人 (69.5%)	0 人 (0.0%)
無回答	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	1 人 (33.3%)

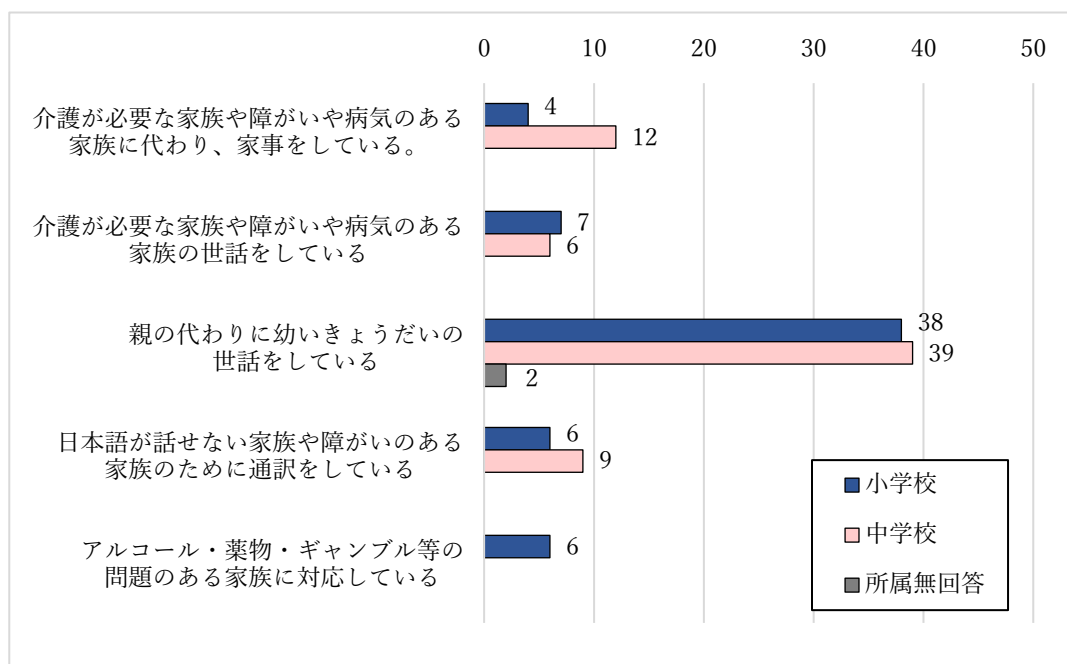


Q. 「ヤングケアラー」と思われる子どもを何人把握していますか。

小学校	98 人
中学校	81 人
所属無回答	2 人

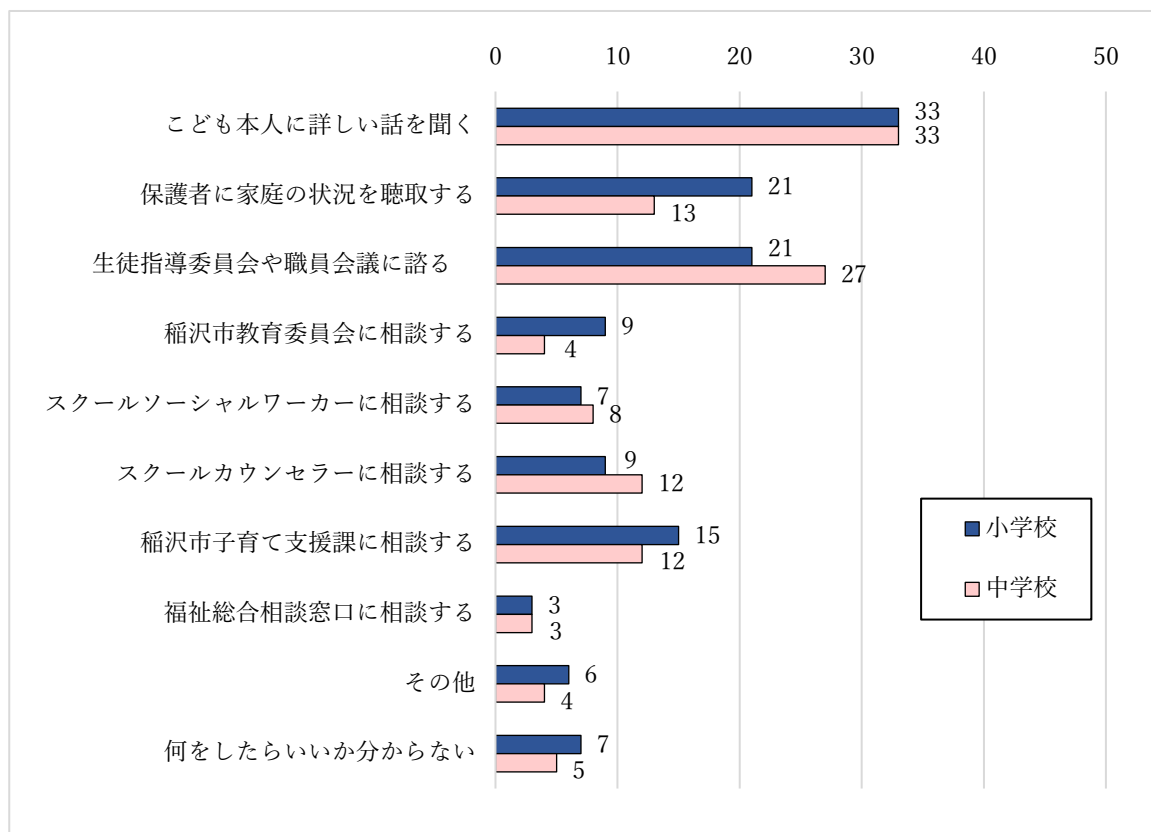
Q. 「ヤングケアラー」と思われるこどもの状況はどれですか。(複数選択)

項目	小学校 回答者数 43	中学校 回答者数 43	所属無回答 回答者数 2
介護が必要な家族や障がいや病気のある家族に代わり、家事をしている。	4 人 (9.3%)	12 人 (27.9%)	0 人 (0.0%)
介護が必要な家族や障がいや病気のある家族の世話をしている	7 人 (16.3%)	6 人 (14.0%)	0 人 (0.0%)
親の代わりに幼いきょうだいの世話をしている	38 人 (88.4%)	39 人 (90.7%)	2 人 (100.0%)
日本語が話せない家族や障がいのある家族のために通訳をしている	6 人 (14.0%)	9 人 (20.9%)	0 人 (0.0%)
アルコール・薬物・ギャンブル等の問題	6 人 (14.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)



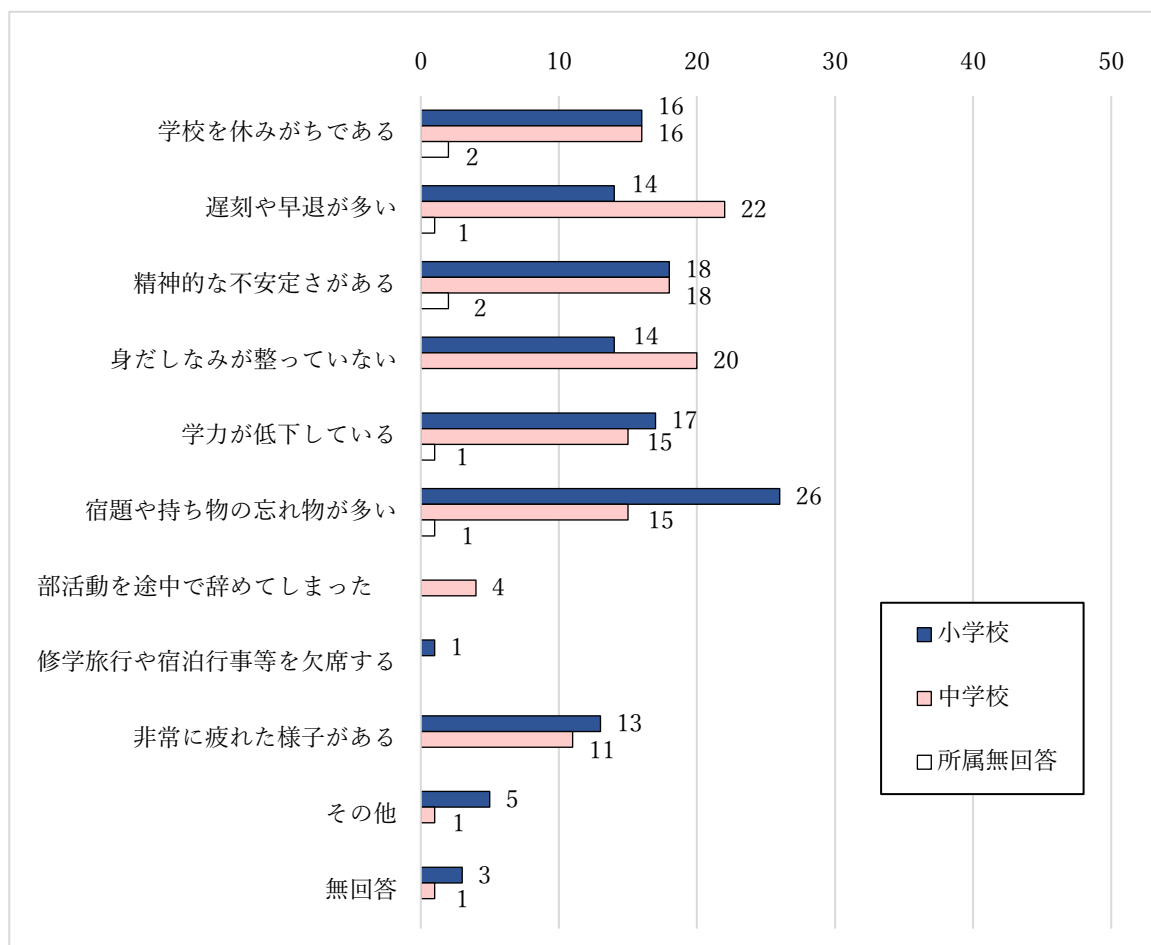
Q.「ヤングケアラー」と思われるこどもを発見した場合の対応としてどのようなことをしていますか。(複数選択)

項目	小学校 回答者数 43	中学校 回答者数 43	所属無回答 回答者数 2
こども本人に詳しい話を聞く	33 人 (76.7%)	33 人 (76.7%)	0 人 (0.0%)
保護者に家庭の状況を聴取する	21 人 (48.8%)	13 人 (30.2%)	0 人 (0.0%)
生徒指導委員会や職員会議に諮る	21 人 (48.8%)	27 人 (62.8%)	0 人 (0.0%)
稲沢市教育委員会に相談する	9 人 (20.9%)	4 人 (9.3%)	0 人 (0.0%)
スクールソーシャルワーカーに相談する	7 人 (16.3%)	8 人 (18.6%)	0 人 (0.0%)
スクールカウンセラーに相談する	9 人 (20.9%)	12 人 (27.9%)	0 人 (0.0%)
稲沢市子育て支援課に相談する	15 人 (34.9%)	12 人 (27.9%)	0 人 (0.0%)
福祉総合相談窓口相談する	3 人 (7.0%)	3 人 (7.0%)	0 人 (0.0%)
その他	6 人 (14.0%)	4 人 (9.3%)	0 人 (0.0%)
何をしたらいいかわからない	7 人 (16.3%)	5 人 (11.6%)	2 人 (100%)



Q.「ヤングケアラー」と思われるこどもについて、どのような影響が出ていますか。（複数選択）

項目	小学校 回答者数 43	中学校 回答者数 43	所属無回答 回答者数 2
学校を休みがちである	16 人 (37.2%)	16 人 (37.2%)	2 人 (100%)
遅刻や早退が多い	14 人 (32.6%)	22 人 (51.2%)	1 人 (50.0%)
精神的な不安定さがある	18 人 (41.9%)	18 人 (41.9%)	2 人 (100%)
身だしなみが整っていない	14 人 (32.6%)	20 人 (46.5%)	0 人 (0.0%)
学力が低下している	17 人 (39.5%)	15 人 (34.9%)	1 人 (50.0%)
宿題や持ち物の忘れ物が多い	26 人 (60.5%)	15 人 (34.9%)	1 人 (50.0%)
部活動を途中で辞めてしまった	0 人 (0.0%)	4 人 (9.3%)	0 人 (0.0%)
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	1 人 (2.3%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
非常に疲れた様子がある	13 人 (30.2%)	11 人 (25.6%)	0 人 (0.0%)
その他	5 人 (11.6%)	1 人 (2.3%)	0 人 (0.0%)
無回答	3 人 (7.0%)	1 人 (2.3%)	0 人 (0.0%)



(2) 『ヤングケアラー』と思われるこどもへの対応策、課題

現在、教職員で行っている『ヤングケアラー』と思われるこどもへの対応策としては、「こどもの観察（見守り）の継続」、「こどもへの声掛け」、「職員間での情報共有」が上位を占めました。

一方、他機関との連携は低い結果となりました。『ヤングケアラー』支援の1つに、他機関と連携を図り、早期発見に努めることが必要だと言われているので、連携を高めていくことが課題です。

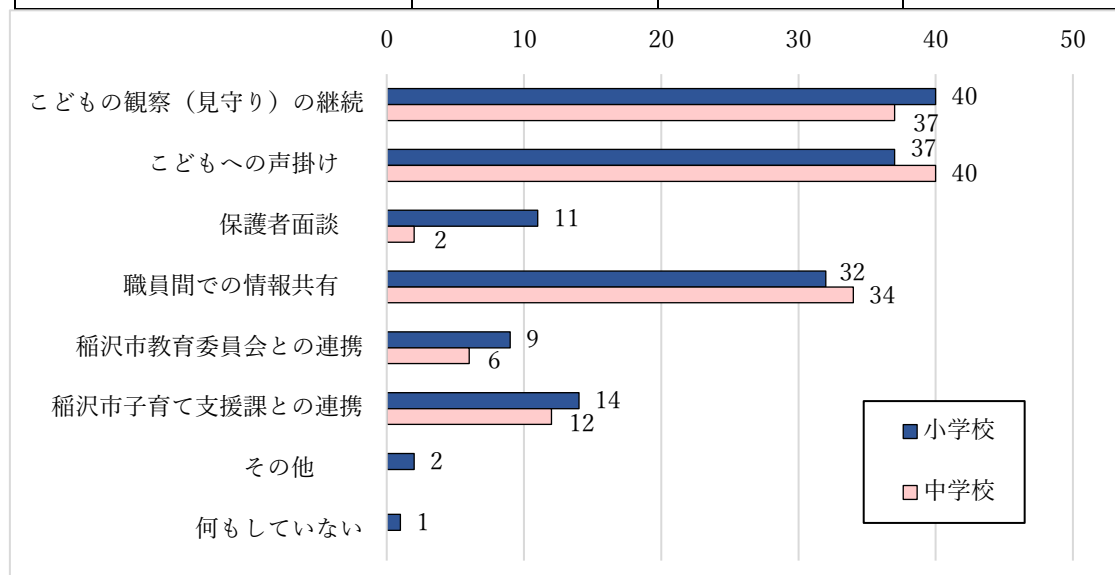
『ヤングケアラー』と思われるこどもに必要な支援を考えることでは、小学校、中学校ともに、「こども自身が『ヤングケアラー』について知ること」、「こどもが教職員に話しやすい関係を作ること」、「教職員が『ヤングケアラー』について知ること」が上位を占めました。それ以外では、「学校に『ヤングケアラー』本人が相談できる窓口があること」、「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置が充実すること」が必要と感じている教職員が多くいることも分かりました。

『ヤングケアラー』と思われるこどもがいる可能性を早期に発見する上で課題と感じていることについては、「家族の世話などを行っているこどもがいることを認識しているが、『ヤングケアラー』かどうかの線引きが難しい」、「家庭内のことで問題が表に出にくく、『ヤングケアラ

一』としての状況の把握が難しい」、「こども自身やその家族が『ヤングケアラー』と認識していない」が上位を占め、『ヤングケアラー』かどうかの基準や状況把握の難しさがあることが分かりました。

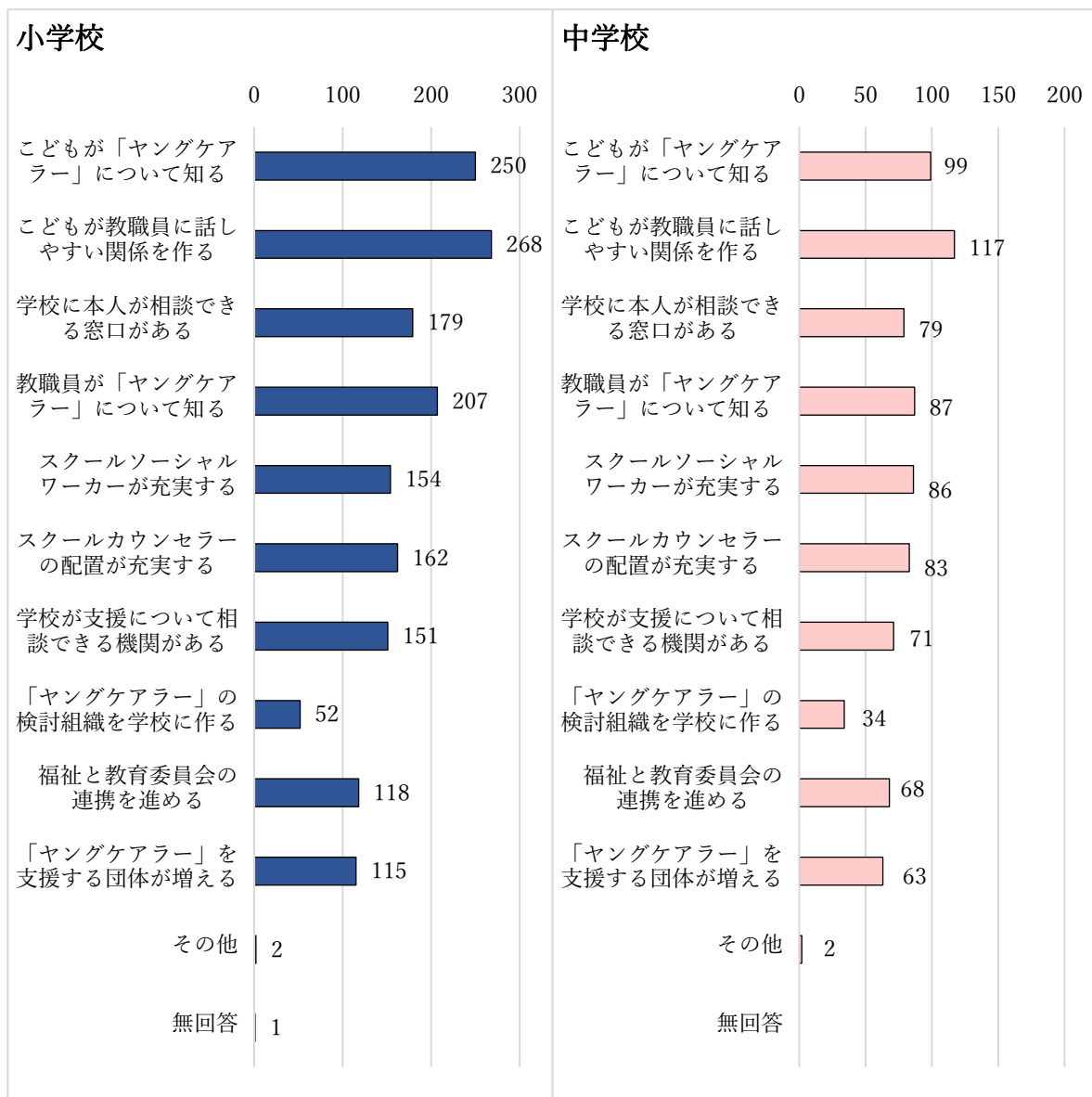
Q.「ヤングケアラー」と思われるこどもに対してどのような対応策を実施していますか。
(複数選択)

項目	小学校 回答者数 43	中学校 回答者数 43	所属無回答 回答者数 2
こどもの観察（見守り）の継続	40 人 (93.0%)	37 人 (86.0%)	1 人 (50.0%)
こどもへの声掛け	37 人 (86.0%)	40 人 (93.0%)	0 人 (0.0%)
保護者面談	11 人 (25.6%)	2 人 (4.7%)	0 人 (0.0%)
職員間での情報共有	32 人 (74.4%)	34 人 (79.1%)	2 人 (100%)
稲沢市教育委員会との連携	9 人 (20.9%)	6 人 (14.0%)	0 人 (0.0%)
稲沢市子育て支援課との連携	14 人 (32.6%)	12 人 (27.9%)	0 人 (0.0%)
その他	2 人 (4.7%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
何もしていない	1 人 (2.3%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)



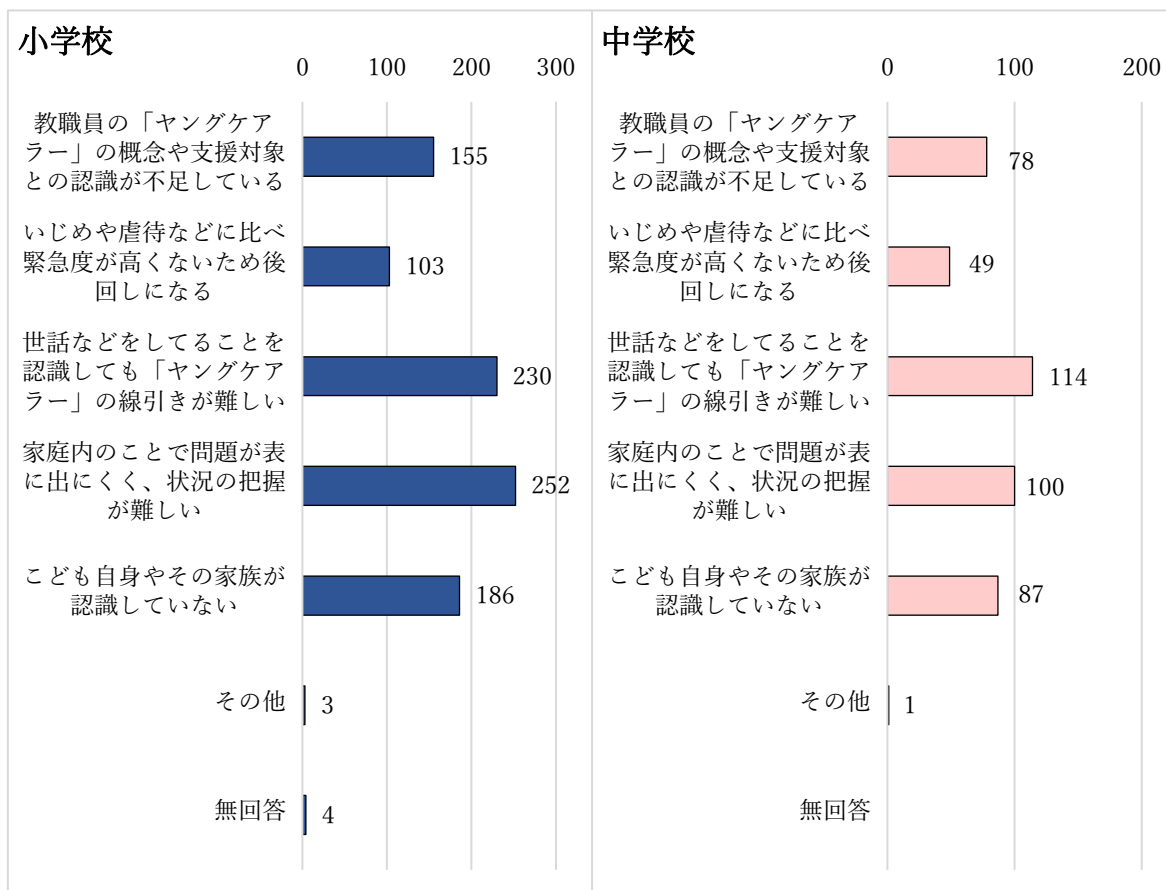
Q.「ヤングケアラー」と思われるこどもを支援するためにどのようなことが必要だと思いますか。(複数選択)

項目	小学校 回答者数 340	中学校 回答者数 141	所属無回答 回答者数 3
こども自身が「ヤングケアラー」について知ること	250 人 (73.5%)	99 人 (70.2%)	2 人 (66.7%)
こどもが教職員に話しやすい関係を作ること	268 人 (78.8%)	117 人 (83.0%)	1 人 (33.3%)
学校に「ヤングケアラー」本人が相談できる窓口があること	179 人 (52.6%)	79 人 (56.0%)	1 人 (33.3%)
教職員が「ヤングケアラー」について知ること	207 人 (60.9%)	87 人 (61.7%)	2 人 (66.7%)
スクールソーシャルワーカーの配置が充実すること	154 人 (45.3%)	86 人 (61.0%)	0 人 (0.0%)
スクールカウンセラーの配置が充実すること	162 人 (47.6%)	83 人 (58.9%)	0 人 (0.0%)
学校がヤングケアラーへの支援について相談できる機関があること	151 人 (44.4%)	71 人 (50.4%)	0 人 (0.0%)
「ヤングケアラー」について検討する組織を学校に作ること	52 人 (15.3%)	34 人 (24.1%)	0 人 (0.0%)
福祉と教育委員会の連携を進めること	118 人 (34.7%)	68 人 (48.2%)	1 人 (33.3%)
「ヤングケアラー」を支援する団体が増えること	115 人 (33.8%)	63 人 (44.7%)	1 人 (33.3%)
その他	2 人 (0.6%)	2 人 (1.4%)	0 人 (0.0%)
無回答	1 人 (0.3%)	0 人 (0.0%)	1 人 (33.3%)



Q.「ヤングケアラー」と思われるこどもがいる可能性を早期に確認する上で、課題と思われることは何ですか。（複数選択）

項目	小学校 回答者数 340	中学校 回答者数 141	所属無回答 回答者数 3
教職員において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	155 人 (45.6%)	78 人 (55.3%)	1 人 (33.3%)
いじめや虐待などに比べ緊急度が低いいため、後回しになる	103 人 (30.3%)	49 人 (34.8%)	1 人 (33.3%)
家族の世話などを行っているこどもを認識しているが、「ヤングケアラー」かどうかの線引きが難しい	230 人 (67.6%)	114 人 (80.9%)	2 人 (66.7%)
家庭内のことで問題が表に出にくく、「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい	252 人 (74.1%)	100 人 (70.9%)	2 人 (66.7%)
こども自身やその家族が「ヤングケアラー」と認識していない	186 人 (54.7%)	87 人 (61.7%)	1 人 (33.3%)
その他	3 人 (0.9%)	1 人 (0.7%)	0 人 (0.0%)
無回答	4 人 (1.2%)	0 人 (0.0%)	1 人 (33.3%)



4 今後の施策展開に向けて

(1) 周知・啓発

アンケートの集計結果では、『ヤングケアラー』の当事者となり得る小学生の約8割、中学生の約7割弱が『ヤングケアラー』という言葉聞いたことがないと答えています。

小中学校と連携し、『ヤングケアラー』の認知度を高めるため、より一層の広報啓発を行うことが必要と考えます。

また、家族のお世話が日常化・常態化していることから、自らが『ヤングケアラー』だと気が付いていないことも考えられます。こども自身が、『ヤングケアラー』の意味について正しく理解できるよう、直接的に啓発するなど、積極的な取り組みをする必要があります。

さらに、こどもばかりでなく、大人も『ヤングケアラー』について正しく認識し、『ヤングケアラー』の支援の重要性について理解が進められるよう、地域に向けての啓発や支援者向けの研修会開催などに取り組んでいきます。

(2) 連携の強化

『ヤングケアラー』支援について、相互理解を深めるため、学校や民生・児童委員など関係機関と定期的な意見交換を実施し、連携の強化に取り組んでいきます。

(3) 相談支援体制の充実

学校や児童クラブなど、こどもと接する機会の多い支援者が『ヤングケアラー』支援の重要性について認識し、それとともに市はこどもが気軽に相談できる体制をつくることで、支援を望んでいるこどもを取り残さないことが重要と考えます。そのため、支援者はこどもの年齢に応じた見守りを行うことで『ヤングケアラー』を早期に把握し、子育て支援課や福祉総合相談窓口などの相談機関につなげることで、課題解決に向けて支援を展開します。

また、こどもが相談しやすい電話やチャット相談の情報を伝えるため、リーフレットなどの啓発物品を学校を通じて児童・生徒へ配布し、チラシやポスターを市役所や市内公共施設に掲示することで「ヤングケアラー」の認知度を高めるとともに、支援者に対しては、家族の状況や保護者の状況などに応じて利用できる行政サービスなどをまとめた「ヤングケアラー支援ガイドブック」を作成し周知していきます。